

皆様おはようございます。

7月に入りました。日々時ならぬ猛暑の日々でしたが、皆様お元気にお過ごしでしょうか。

2019年12月に中国の武漢で始まったとされるコロナウイルスにより、世界にパンデミックが起きました。今日に至るまでその疾病の制圧はなされておらず、世界はいまだ出口の見えない戦いをしております。

そして今年の2月24日、ロシアのウクライナ侵攻が始まり、(すでにクリミアへの侵攻は2014年の2月から行われましたが)これらの出来事以来、世界は以前のようには戻らないような悲惨のもとにあります。戦争の世紀であった20世紀の悲惨が、二度と戻らないことを願った出来事が再び起こり、21世紀の医学や科学技術の中で決して起こらないような、もしくは21世紀の技術があったからこそ起こったとも言える強力な疾病によって、世の中はそれ以前の状況から一変してしまいました。

ヨハネの黙示録は1世紀の終わりころ、紀元95年頃主の弟子ヨハネによって書かれました。彼はパトモス島に流されつつ、主から受けた啓示によってこの黙示録をしたためました。紀元70年、ローマ軍によってエルサレムの神殿は粉々に壊され、民は何をもって神様に礼拝を捧げるべきか、その方法を失いましたが、主イエス様はヨハネ2:19-にて、こう言われました。

「イエスは彼らに答えて言われた、『この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう』。そこで、ユダヤ人たちは言った、『この神殿を建てるのには、四十六年もかかっています。それなのに、あなたは三日のうちに、それを建てるのですか』。

イエスは自分のからだである神殿のことを言われたのである。」

またイエス様は、サマリヤの女性との会話の中でこうおっしゃいました。

ヨハネ4:19 女はイエスに言った、「主よ、わたしはあなたを預言者と見ます。

4:20 わたしたちの先祖は、この山で礼拝をしたのですが、あなたがたは礼拝すべき場所は、エルサレムにあると言っています」。

4:21 イエスは女に言われた、「女よ、わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが、この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。

4:22 あなたがたは自分の知らないものを拝んでいるが、わたしたちは知っているかたを礼拝している。救はユダヤ人から来るからである。

4:23 しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまことをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。

4:24 神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまことをもって礼拝すべきである」。

イエスキリストの十字架での贖いより、霊とまことをもって父なる神様を礼拝する時が

到来し、どの山ででもない、神殿ででもない、霊とまこととをもって、主イエス様を通して礼拝がなされる日が来ました。今がその時です。

イスラエルの民は敵国の強大な力により何度も苦悩を味わいましたが、神様はご自身の民を何度も救われました。

今私たちと世界を取り巻く状況はかつてないほどに苦しみの中にあり、戦火と窮乏と恐怖の中にあるかもしれませんが、そのような中にあるからこそ、私たちはこの主の啓示された御言葉に期待し、心の糧とし、聞き従い、救いを得たいと願うのです。

1 イエス・キリストの黙示。この黙示は、神が、すぐにも起るべきことをその僕たちに示すためキリストに与え、そして、キリストが、御使をつかわして、僕ヨハネに伝えられたものである。

イエスキリストの黙示。黙示とは、明らかにするもの、啓示という意味を持ちます。イエスキリストが明らかにされる啓示がここにあります。

ヨハネ 14:8 ピリポはイエスに言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下されば、わたしたちは満足します」。

14:9 イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。

この黙示(啓示)は、イエスキリストによってあらわされたものであると同時に、イエスキリストについて明かされた啓示でもあります。

この黙示は、神が、すぐにも起るべきことをその僕たちに示すためキリストに与え、そして、キリストが、御使をつかわして、僕ヨハネに伝えられたものである。

この黙示は、神様がすぐにでも起こることをその僕たちに示すためにキリストに与えられました。

このキリストの黙示は、父なる神様から御子キリストがお受けになったものでした。父なる神様は、その神のしもべにこの黙示(啓示)を与えられるためにイエス様を通されました。すぐにでも起こるべきこと。この切迫した言葉に恐ろしいものを感じます。

そしてキリストが、御使いを遣わして、しもべヨハネに伝えました。マリアの受胎告知をしたのもまた御使いでした。

2 ヨハネは、神の言とイエス・キリストのあかしと、すなわち、自分が見たすべてのことをあかした。

その御使いから示された、神の言葉と彼が見たイエス・キリストの子と全てをヨハネは証しました。そしてその老年の時彼に対して黙示が与えられました。

3 この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである。

ここにもまた、「時が近づいている」という言葉が書いてあります。今まで人類は長い時を経てきました。ヨハネも長らく神の言葉と主イエス・キリストについて証しをしてきました。しかしこの時、特別な時が近づいているとヨハネは神様からの啓示を受けました。そうであればこそ、「この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである」と彼は語りました。

イエス様が会堂で、イザヤ書を読むようにとの使命を受けたくだりがあります。

ルカ 4:16 それからお育ちになったナザレに行き、安息日にいつものように会堂にはいり、聖書を朗読しようとして立たれた。

4:17 すると預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を出された、

4:18 「主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださったからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ、

4:19 主のめぐみの年を告げ知らせるのである」。

4:20 イエスは聖書を巻いて係りの者に返し、席に着かれると、会堂にいるみんなの者の目がイエスに注がれた。

4:21 そこでイエスは、「この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した」と説きはじめられた。

このように、会堂で、礼拝の座にて、御言葉が朗読され、皆ともにそれに聞き入り、朗読する者も、これを聞く者も、その中に書かれてあることを守る者たちは、幸いであるとヨハネは啓示を受けました。

「時は近づいている」定められた、適切な時は、もう間際。今は瀬戸際。今は道の縁、道の端っこに立っており、一歩先は違うところとなっている、そういう瀬戸際に今立っているから、語る者も、聞く者も、聞いてその言葉を守るものになりなさい。聞いてその言葉に従うものとなりなさいと語られています。

- 4 ヨハネからアジヤにある七つの教会へ。今いまし、昔いまし、やがてきたるべきかたから、また、その御座の前にある七つの霊から、
- 5 また、忠実な証人、死人の中から最初に生れた者、地上の諸王の支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し、
- 6 わたしたちを、その父なる神のために、御国の民とし、祭司として下さったかたに、世々限りなく栄光と権力とがあるように、アマメン。

「今いまし、昔いまし、やがてきたるべきかた」それが主です。主はやがて来られます。しかし人はその時を知りません。

マタイ 24:21 その時には、世の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような大きな患難が起るからである。

24:22 もしその期間が縮められないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選民のためには、その期間が縮められるであろう。

24:23 そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、また、『あそこにいる』と言っても、それを信じるな。

24:24 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。

24:25 見よ、あなたがたに前もって言うておく。

24:26 だから、人々が『見よ、彼は荒野にいる』と言っても、出て行くな。また『見よ、へやの中にいる』と言っても、信じるな。

24:27 ちょうど、いなづまが東から西にひらめき渡るように、人の子も現れるであろう。

24:28 死体のあるところには、はげたかが集まるものである。

24:29 しかし、その時に起る患難の後、たちまち日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。

24:30 そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見ると見ると。

24:31 また、彼は大きいなるラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。

24:32 いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。

24:33 そのように、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。

24:34 よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。

24:35 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。

24:36 その日、その時は、だれも知らない。天の御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。

24:37 人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。

24:38 すなわち、洪水の出る前、ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていた。

24:39 そして洪水が襲ってきて、いっさいのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の現れるのも、そのようであろう。

24:40 そのとき、ふたりの者が畑にいと、一人は取り去られ、一人は取り残されるであろう。

24:41 ふたりの女がうすをひいていると、一人は取り去られ、一人は残されるであろう。

24:42 だから、目をさましていなさい。いつの日にあなたがたの主がこられるのか、あなたがたには、わからないからである。

24:43 このことをわきまえているがよい。家の主人は、盗賊がいつごろ来るかわかっているなら、目をさましていて、自分の家に押し入ることを許さないであろう。

24:44 だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである。

2 ペテロ 3:1 愛する者たちよ。わたしは今この第二の手紙をあなたがたに書きおくり、これらの手紙によって記憶を呼び起し、あなたがたの純真な心を奮い立たせようとした。

3:2 それは、聖なる預言者たちがあらかじめ語った言葉と、あなたがたの使徒たちが伝えた主なる救主の戒めとを、思い出させるためである。

3:3 まず次のことを知るべきである。終りの時にあざける者たちが、あざけりながら出てきて、自分の欲情のままに生活し、

3:4 「主の来臨の約束はどうなったのか。先祖たちが眠りについてから、すべてのものは天地創造の初めからそのままであって、変ってはいない」と言うであろう。

3:5 すなわち、彼らはこのことを認めようとはしない。古い昔に天が存在し、地は神の言によって、水がもとになり、また、水によって成ったのであるが、

3:6 その時の世界は、御言により水でおおわれて滅んでしまった。

3:7 しかし、今の天と地とは、同じ御言によって保存され、不信仰な人々がさばかれ、滅ぼさるべき日に火で焼かれる時まで、そのまま保たれているのである。

3:8 愛する者たちよ。この一事を忘れてはならない。主にあっては、一日は千年のようであり、千年は一日のようである。

3:9 ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。

3:10 しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくされるであろう。

3:11 このように、これらはみなくずれ落ちていくものであるから、神の日の到来を熱心に待ち望んでいるあなたがたは、

3:12 極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。その日には、天は燃えくずれ、天体は焼けうせてしまう。

3:13 しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。

3:14 愛する者たちよ。それだから、この日を待っているあなたがたは、しみもなくきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるように励みなさい。

5 忠実な証人、死人の中から最初に生れた者、地上の諸王の支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し、

6 わたしたちを、その父なる神のために、御国の民とし、祭司として下さったかたに、世々限りなく栄光と権力とがあるように、アアメン。

主イエス様は忠実な証人でいらっしゃいました。信頼できる、誠実な証し人でした。自分の身を滅することをもちとわず、私たちのために贖い代となって下さいました。しかし主は死者の中から最初に生まれた(復活された)ものとなられ、それに続く私たちの復活のしるしであり希望となられました。主は死に打ち勝たれ、すべてのものを支配し給うお方です。

ピリピ 2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

そして主はその命の犠牲と引き換えに、私たちが父なる神のために、御国の民とし、祭司として下さいました。この方にとこしえに栄光がありますように。

7 見よ、彼は、雲に乗ってこられる。すべての人の目、ことに、彼を刺しとおした者たちは、彼を仰ぎ見るであろう。また地上の諸族はみな、彼のゆえに胸を打って嘆くであろう。しかし、アメン。

8 今いまし、昔いまし、やがてきたるべき者、全能者にして主なる神が仰せになる、「わたしはアルパであり、オメガである」。

使徒言行録にて、弟子たちが空を見上げて、イエス様が雲に消えていったそのようなありさまで、再び主がお越しになられると御使いからの声がありました。

その時、無知によって主を十字架に釘によって刺した者は胸を打って嘆き、泣き叫ぶのです。しかし主を信じる民は、救われた民は喜んで主を迎えます。

今いまし、昔いまし、やがてきたるべき者、全能者にして主なる神、アルパであり、オメガであるお方をひたすら見上げ、信仰と感謝とをもって礼拝をささげ、そのお言葉に聞き従いましょう。

ヘブル 12:1 こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。

12:2 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないうで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

12:3 あなたがたは、弱り果てて意気そそうしないために、罪人らのこのような反抗を耐え忍んだかたのことを、思いみるべきである。

12:4 あなたがたは、罪と取り組んで戦う時、まだ血を流すほどの抵抗をしたことがない。

12:5 また子たちに対するように、あなたがたに語られたこの勧めの言葉を忘れて、／「わたくしの子よ、／主の訓練を軽んじてはいけない。主に責められるとき、弱り果ててはならない。

12:6 主は愛する者を訓練し、／受け入れるすべての子を、／むち打たれるのである」。

12:7 あなたがたは訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを、子として取り扱っておられるのである。いったい、父に訓練されない子があるだろうか。

12:8 だれでも受ける訓練が、あなたがたに与えられないとすれば、それこそ、あなたがたは私生子であって、ほんとうの子ではない。

12:9 その上、肉親の父はわたしたちを訓練するのに、なお彼をうやまうとすれば、なおさ

ら、わたしたちは、たましいの父に服従して、真に生きるべきではないか。

12:10 肉親の父は、しばらくの間、自分の考えに従って訓練を与えるが、たましいの父は、わたしたちの益のため、そのきよさにあずからせるために、そうされるのである。

12:11 すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。

12:12 それだから、あなたがたのなえた手と、弱くなっているひざとを、まっすぐにしなさい。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。時迫り、すぐにも起こるはずの終わりの日の出来事について、記されたことを聞き、守り行うことが出来ますように。今おられ、かつておられ、やがて来られる方、全能者、「わたしはアルファであり、オメガである」お方から目を離さずに進ませて下さい。誠実な方、死者の中から最初に復活した方からの確かなお守りを願います。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン